

授業科目		科目概要・形式	配当年次	オンライン参加
がん看護学実習Ⅲ		2単位 90 時間 実習科目	博士前期 2 年次 通年開講	可・ 不可 「下記 6, 7 参照」
科目責任者	鳴井 ひろみ			
担 当 者	鳴井 ひろみ、本間ともみ、三原 大佳（非常勤）、町野 孝幸（非常勤）、大串 祐美子（非常勤）、二井矢 ひとみ（非常勤）、納谷さくら（非常勤）			
1. 科目のねらい・目標				
がん治療および緩和ケアを必要としているがん患者に対する診断、治療に伴う臨床判断の実際を学び、がん治療および緩和ケアを必要としているがん患者の身体的管理方法・有害事象のアセスメント能力、高度な臨床判断能力を養い、がん看護専門看護師としての基礎的な態度、的確な臨床判断および身体的管理を行う能力を修得する。				
2. 授業計画・内容				
＜実習内容＞ 1) がん治療および緩和ケアを受ける患者の診断・治療に伴う臨床判断 がん治療および緩和ケアを必要としている患者に対して、臨床指導医の指導のもと、疾患および診断・治療に関する医学的知識に基づき、身体審査、検査データ等の客観的データおよび患者の症状等の主観的データを収集し、根拠に基づく的確な臨床判断を行う。 2) がん治療および緩和ケアを受ける患者の身体的管理 がん治療を受ける患者の症例カンファレンスや回診、また緩和ケアチームのラウンドやカンファレンスに参加し、臨床指導医の指導のもとに適切な臨床判断能力を養う。がんの進展やがん治療に伴う苦痛による身体的、心理社会的な影響について、臨床指導医のもとに的確な臨床判断を行い、実際の治療や有害事象への対応などの患者に必要な医療処置を医師との協働により行い、適切に身体的管理を行う。 3) がん治療および緩和ケアを受ける患者の診断・治療過程におけるがん看護専門看護師の役割の考察 がん看護専門看護師の指導を受け、がん治療および緩和ケアを必要としている患者の診断・治療過程において、看護の立場から判断した身体・症状管理と治療遂行に必要な援助について検討する。				
＜実習場所＞ 東札幌病院				
＜実習指導体制＞ 1) 教員は実習指導者（がん看護専門看護師・臨床指導医）と連携して、実習記録およびカンファレンス内容を指導する。 2) 教員は、受け持ち患者の主治医、実習調整担当者、実習病棟看護責任者、実習指導者（がん看護専門看護師・臨床指導医）と連携し、学生の教育環境を調整する。 3) 実習指導者（臨床指導医）は、受け持ち患者の主治医、緩和ケアチームに関わる多職種と連携し、患者アセスメントおよび医療ケア全般を指導する。 4) 教員および実習指導者（がん看護専門看護師・臨床指導医）は、事例分析、カンファレンス内容をスーパーバイズする。				
3. 教科書、参考書				
指定しない。実習状況によって随時、提示する。学内での既習事項を各自で効果的に活用すること。				
4. 成績評価方法				
実践（65%）、実習への取組状況（5%）、がん患者の診断・治療過程における臨床判断と身体管理について看護の立場から考察したレポート（30%）を総合して評価する。				
5. 受講要件				
がん看護専門看護師コースの学生は必修				
6. 社会人学生に対する配慮				
相談があれば個別に対応する。				
7. その他				
・既習事項を活用して事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨むこと。 ・カンファレンスや個別指導は状況に応じて Webex または Zoom を用いてオンラインで実施する。 ・オンデマンドの実施はしない。				